

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

大阪市立田中小

学校

児童数

38

## 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	12.44	19.25	31.41	37.76	45.63	10.07	131.94	19.47	44.79
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	13.00	16.26	36.35	36.30	28.25	9.96	128.15	14.45	48.89
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

## 結果の概要

体力合計点については、男子が44.79点、女子が48.89点となっており、全国平均（男子53.02点、女子53.97点）を男女ともに下回る結果である。

個別種目の平均値を見ると、男子は握力が12.44kg（全国15.96kg）、立ち幅とびが131.94cm（全国150.93cm）と、特に筋力や瞬発力の項目で全国との差が顕著である。女子においては、20mシャトルランが28.25回（全国36.85回）と持久力に課題が見られ、男女ともにほぼ全ての種目で全国および大阪市の水準に届いていないのが実態である。

次に、児童の意識面として、質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」について、男子は肯定的な回答が93.8%、女子は85.7%に達している。この数値は全国や大阪市の平均とほぼ同等であり、児童の運動に対する興味・関心や意欲そのものは高いと言える。特に男子の68.8%は「好き」と強く回答しており、運動に対して前向きな姿勢をもっている。

しかし、実際の活動量には格差が見られる。「1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合」をみると、男子は0.0%であり、全員が一定以上の運動時間を確保できているのに対し、女子は22.2%であり、全国平均（17.3%）や大阪市平均（20.0%）と比較しても、運動不足の児童の割合が高い状況にある。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

田中小学校では運動に親しむ機会を増やすために、体育の授業を学年内で交換授業を行う、六年生では中学校の体育の教員に週1回来ていただき担任とともに指導を行う、個々のめあてを持たせて取り組ませたりするなど、体育の授業の授業改善に努めてきた。また、「かけあし週間」「スポーツテスト週間」、さらに休み時間を活用した「運動遊び大会」など、体育の授業以外でも運動に親しむ機会を学校全体として設けてきた。休み時間には、各クラスで「みんな遊び」を行っており、多様な運動遊びに学級全員で親しむ姿も見られる。こうした取り組みの結果、児童の体育の授業に対する満足度は高く、男子の93.8%、女子の85.7%が授業を「楽しい」と感じている。児童は特に「体を動かしてスッキリすること」や「できなかったことができるようになる」ことに楽しさを見出しており、多くの児童が自ら体力向上の目標を立てて学習に臨んでいる。

一方で運動習慣の定着が今後の課題である。そのため、休み時間の活用や家庭・地域と連携した運動機会の創出をさらに強化する必要がある。また、全般的な体力不足については、単に運動量を確保するだけでなく、運動のコツやポイントを論理的に理解させる指導を行っていく。児童は「コツを教えてもらう」ことや「自分に合った場やルールが用意される」ことで体育がより楽しくなると回答しており、個に応じた段階的な課題設定を進めていく。